

会議録

会議テーマ	令和5年度 第1回阿南市総合教育会議		
開催年月日	令和5年8月18日(金)	資料の有無	有
会場	阿南市役所6階 603、604会議室		
出席者	<p>【構成員】 表原市長、坂本教育長、林教育長職務代理者、里美教育委員、新居教育委員、岡本教育委員</p> <p>【事務局】 岡田企画部長、東企画政策課長（司会）、篠野企画政策課主査、富田事務主任</p> <p>【関係課】 市瀬教育部長、田上教育総務課長、松本学校給食課長、藤居学校再編推進室室長補佐、小笹教育総務課主査、駒井学校給食課主査</p>		
傍聴者	3人		
内 容			
<p>13:11 開会</p> <p>【東企画政策課長】 御案内時間より少し早いですが、皆様お集まりですので、ただ今から令和5年度第1回阿南市総合教育会議を始めさせていただきます。</p> <p>本日は、お忙しいところ、御出席をいただきありがとうございます。私は、本会議の事務局を担当しております企画政策課の東と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>本会議は、阿南市総合教育会議設置要綱第6条の規定により公開することとしており、また、同要綱第7条の規定による会議録を作成するため、会議の発言内容を録音させていただいておりますので、あらかじめ御承知おきください。また、後日、会議録を市ホームページに掲載させていただきますので、御了承の程よろしくお願いいたします。はじめに、表原市長から御挨拶を申し上げます。</p> <p>【表原市長】 改めまして、皆様、こんにちは。本日は大変お忙しい中、また、先ほどまでは阿南市内におきまして、避難指示を発令させていただいておりましたが、大きな事故、怪我もなく、無事に解除することができ、こういう場を設けることができましたことを非常に嬉しく思っております。教育委員の皆様方におかれましては、平素から地域の明日を担う子どもたちに対して、格別のお力添えをいただき、本市の教育行政にも多大なる御協力をいただいておりますことに、この場をお借りして御礼を申し上げます。</p> <p>さて、この総合教育会議は、教育委員の皆様方と教育現場での課題や、子どもたちを取り巻く様々な現状などを共有をさせていただき、それぞれの役割などについて活発な議論を交わすことによって、意思の疎通を図ることができる大変重要な場であると認識しております。今回におきましては、テーマは2つでございます。学校給食における地産地消の推進とオーガニック給食の導入について、もう1つは、かねてより懸案事項であります、阿南市立小・中学校再編に係る取組について、この2</p>			

つを協議事項とさせていただきます。

限られた時間ではございますけれども、ぜひ皆様方から忌憚のない御意見を頂戴できればと思います。結びに当たりまして、今後におきましても、こういった会議等を通じまして、より一層、教育委員の皆様方と意思の疎通を図りながら、地域の主役は子どもたちであるという共通認識のもとに一致団結して取組を進めてまいりたいと思いますので、本日が良き場になることを御祈念申し上げまして、開催に当たりましての御挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

【東企画政策課長】

次に、第3の協議に移らせていただきます。

阿南市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、表原市長に議長をお願いいたします。

【表原市長】

それでは、早速ですが、会議に入らせていただきます。協議事項1、学校給食における地産地消の推進とオーガニック給食導入の検討について、学校給食課長から御報告をよろしくお願い申し上げます。

【松本学校給食課長】

学校給食課の松本です。よろしくお願い申し上げます。それでは協議事項1、学校給食における地産地消の推進とオーガニック給食導入の検討について、お手元の会議次第の次には新聞記事、そのあとに学校給食課から提出させていただきました資料が2枚ございますので、その資料をもとに御説明をさせていただきますと思います。

まず1の概要ですが、本市の学校給食では従来より、阿南市産のお米やしいたけ、わかめ、チンゲン菜等を活用し、次に県内産の食材を優先的に選定してまいりました。

令和4年度におきましては、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用しまして、長引く新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が減少した野菜や魚介類等の生産者を支援すると共に、児童生徒の食育を推進するため、地元食材を優先的に使用することに努めてまいりました。つまり、食育の推進と地元生産者支援という二面性のある事業を実施してきたということでございます。

また、生産者の皆様取材を申し込みまして、野菜等の栽培方法や生産にかける思い、子どもたちへのメッセージを動画にまとめた食の教材を作成し、各学校の給食時間等に、校内放送を通じて活用させていただきました。オクラの動画を見た児童生徒からは、オクラは苦手だけれど、農家の人が一生懸命に育てている姿を見て頑張る食べる、地元の農家の人が栽培していることに親しみを感じた、実ったオクラや花の美しさを知ること興味が高まった等の感想をたくさんいただいています。また、生産者の皆様からも、新型コロナウイルス感染症の影響で消費の減少や、一次産業の生産者人口が高齢化、後継者不足によって減ってきている中で、励みになると喜んでいただいています。今後も、学校給食を生きた教材として活用し、児童生徒の食育を推進してまいりたいと考えております。

令和4年度の実績は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用したものとして、まず、県漁連を通じ、椿泊港などで水揚げをされました、いさき、はまち、かますなどの海産物、阿南市産のたまご、牛肉、阿波尾鶏、オクラ、すだち、キャベツ、チンゲン菜、ブロッコリー、きゅうり、にんじん、新野で生産されているゆこう酢、すだち酢、デザートでは、新たに阿南市の学校給食のために開発していただきました、ゆこう果汁を使ったゼリー、阿南市産のお米を使ったタルトやムースを活用させていただきました。

次に、令和5年度の実績内容としては、引き続き地元産のお米やしいたけ、キャベツ、チンゲン菜、きゅうり、にんじん、オクラ、かます、わかめ等を活用した献立を提供し、市のホームページにオクラ、きゅうりの動画や写真を掲載しました。今後につきましても、地元食材に関する食育資料を作成する予定でございます。

今後の展開としては、地元の生産者の皆様は取材に関して協力的な方も多く、学校給食に活用されることに感謝の声をいただいています。児童生徒にも、市内で生産された食材を紹介することで、食に関する関心を高めることに繋がり、学校給食の1つの課題でもあります、残食量の減少に繋がればと考えております。

次に、オーガニック給食導入の検討についてでございます。全国的には、まだまだ少数ですが、無農薬などによる有機野菜を活用したオーガニック給食が広がりつつあります。本市におきましても、オーガニックのお米や野菜の生産者が増加しており、ぜひとも学校給食に活用してほしいという御要望もお伺いしています。オーガニック給食の導入に向けましては、食材ごとの安定的な供給と購入する予算等の課題を解消する必要があると共に、学校給食に採用する場合の基準やルールを決定することも必要となるため、今後も、関係者、関係団体と連携をし、検討を進めてまいりたいと考えております。

資料の2枚目を御覧下さい。食育教材として、各学校で活用いただいた動画や写真につきましては、併せて市のホームページにも掲載をしてきたところでございます。地産地消推進事業は、令和4年6月議会で予算化をし、7月の献立分から教材の作成を行ってまいりました。本日は、この一覧にはございませんが、令和5年度の活動の一環として、今年4月にホームページに掲載をしました、きゅうりの動画を御覧いただきたいと思っております。

(動画)

以上で、学校給食における地産地消の推進とオーガニック給食導入の検討についての報告とさせていただきます。

【表原市長】

御説明ありがとうございました。それでは、協議に入る前に、私からも思いと補足について説明をさせていただきます。

先だつての市議会におきまして、地域における生産物を給食に提供してほしいという地産地消と、親御さんが安心でき、子どもたちの成長を後押しする安全な食材の提供、オーガニック化について、前向きに検討していくということで答弁させていただきました。

私も飲食業界に長く身を置くものとして、食に対するこだわりは、おそらく人並み以上のものがあります。私事で恐縮ですが、今月で11ヶ月になる子どもを育てており、食品の成分分析表は一品一品確認します。全ての保護者の皆様方にとって、良い成長を促す食材の割合を増やしていきたい、というのは共通する思いだと思います。生産者の皆様におきましても、自分たちの育てた安全なものを子どもたちが食べてくれるということは、モチベーションを上げていく大きな原動力になります。学校給食をより良くしていくという取組は、まさに、教育部局と市長部局が情報共有を図りながら、一致団結する取組だと思っております。皆様方からも、それぞれの立場から、学校給食における地産地消とオーガニック化、この2つについて、どなたからでも構いませんので、忌憚のない御意見をいただければと思います。

新居委員さんどうでしょうか。

【新居委員】

食を提供するものとしての立場からも、やはりオーガニック化は大切です。全ての食材から農薬を消すということは不可能ですけれども、子どもたちだけではなく、私たちが生で口にしたり日常で口にするものは、なるべくオーガニックや無農薬のものを食べられたら素晴らしいと思います。特に、成長期の子どもたちが口にすることは、オーガニックにこだわった方がいいです。アメリカや外国でも、ほとんどオーガニックに切り替わっていますので、そういう時期が来ているのではないのかなと感じております。

【表原市長】

同じく現場の声として、岡本委員さんはいかがでしょう。

【岡本委員】

先日、テレビで拝見したのですが、無料で野菜を提供しているスーパーがあるそうです。店長さんがおっしゃっていたのは、市場に長く置いていても破棄されるだけなので、地元の方々に分け与えた方が良いという思いで実施されているそうです。安定的な供給や予算の問題をどうクリアしていくかという観点から、形が悪くて売れないものを取り入れて供給できれば良いと感じました。

また、地元の今津小学校についてですが、地元の農家さんと提携をし、自分たちで玉ねぎの種づけをして、夏前もしくは春先に収穫をするという体験をしています。そういう体験も含めて、農業に少しでも興味を持つような試みをしていってもいいのかなと思いました。

【表原市長】

ありがとうございます。ちなみに自ら種付けをし、収穫にも携わるという取組は、市役所の低層棟の屋上で地元の保育所の子もたちに来ていただいてスイカの種を植え、先日、収穫をしたところです。そういった取組を広げることによって、子どもたちの地元の産品に対する関心を高めること、農家の方に対する感謝の気持ちを育むことは非常に大事なことだと思います。

里美委員さん、どうでしょう。

【里美委員】

まず、地産地消の取組については、素晴らしいと思います。阿南市で生活しているとあまり気付かないのですが、県外でスーパーに行き、帰ってきてから阿南市のスーパーに行くと、食材の豊かさに本当に驚きます。野菜やお肉、それからお魚も本当に豊かです。だから、これを学校給食に活用していただくというのは、素晴らしい考えだと思います。

ただ、次のオーガニックの問題ですが、これを実践しようとする、さらにハードルが上がると思っています。岡本委員さんがおっしゃったように、安定供給に課題があるということです。もし始められるのであれば、全てオーガニックというのは難しいと思いますので、食材一つだけでも徐々に切り替えていくということを行政で工夫していただければ素晴らしいのではないのかなと思います。

【表原市長】

ありがとうございます。課題としては、3つの給食センターから全校に対して配食できるだけのロットを安定的に構えるのは高いハードルがあります。小松島市もそうですが、まずは、お米から始めるようになると思います。小松島市に関しては、小松菜の生産量もある程度安定をしているということなので、米と小松菜から実施しています。更に、前日に供給量が分かるのでは配食するのが難しいでしょうから、期間や対象校を限定して導入するという形もあるかもしれません。スモールスタートから段々とスケールを大きくしていくことが、里美委員さんのおっしゃっていた工夫に繋がっていくのかなと思います。

【林委員】

私が校長をしていた時に、給食の食材について放射能の汚染は無いのか、農薬は使われているのか、食材がどこで取れたか等を全て明らかにしてほしいという保護者がいらっしゃいました。放射能の汚染は心配ありませんが、全てを明らかにするのは難しいとお答えしました。放射能も含めて、化学肥料の使用や生産地について等、子どもたちを預ける家族の思いは本当に敏感であると思います。

一方で、農家の人手不足により、害虫等の被害が少なく手間のかからない肥料を使う人が増えています。その肥料を使うと、食べた人の中に残ることが問題になっていて、農薬を撒いていないか確認をして買う人もいます。人手不足のことを考えると仕方ないのかなと思いますが、地産地消、オーガニックも含めて、子どもたちが小さい時から学校教育の中で食育を考えていくというのは、非常に重要であるなと思いました。

【表原市長】

ありがとうございます。

【林委員】

6月に全国オーガニック給食協議会というのが設立されたということで、このオーガニックの話が出たのかなと思ったのですが、どうでしょうか。

【表原市長】

オーガニック給食協議会の件については、私も情報を仕入れるのが少し遅かったところがあり、可能であれば、本市としてもエントリーをすることも検討できたのですが、検討期間があまりにも短かったので、次のタイミングになるのかなと思います。

現在、給食協議会に加入をしている自治体が分かれば、後ほど情報共有をさせていただきます。

小松島市は、JA東とくしまさんが有機農法に非常に造詣が深く、生産者と供給者の情報共有などの素地があるからこそ、オーガニックビレッジ宣言ができています。この給食協議会に入っているところも、長い期間を通じて、供給側と生産者側の情報共有とコーディネーターがしっかりと整っているチームが出来上がっていることから、大きな規模としてオーガニック化を図ることができているというのが私の認識です。

もう1点、オーガニックと言っても千差万別で、国際基準的なオーガニックを目指しているところもあれば、化学薬品だけは使わないところ、低農薬程度のものでオーガニックとして供給をしている等、その基準が自治体によってまちまちです。ですので、阿南市として、オーガニックについて、一定のわかりやすい基準を示すことが非常に大事なのかなと思います。例えば、供給元がどこで、どういう成分のものをどういう形で供給しているのか、という情報開示にも繋がりやすくなります。基準がバラバラだと明確化しづらいという問題が生じてきますので、その点について、今日、認識の一致を図ることができたのかなと思います。

教育長よろしく申し上げます。

【坂本教育長】

オーガニックと言えば、まず、供給量の安定と価格についてです。安直に考えると、農薬を使用しないのであれば、価格は安くなると考える時があります。ところが実際は、人件費がかかり、収穫が減ります。収穫量をいかに増やしていくのが一番問題です。

先ほど市長さんがおっしゃったように、まずはお米だけでも始めて、一步一步確実にステップを踏んでいくことで、関心が高まってくると思います。私も、例えば、あいさい広場にお寿司を買いに行くと、知人が出品していると安心できます。そういう体験が食に対して様々な関心を高め、その後の生活に繋がっていくのではないかなと思っています。

あと1点、学校給食課からの資料にも出ていましたが、残食量についてです。学校、もしくは調理の品目等によっては相当多いことがあるので、子どもに対しても、先ほどのビデオレターのように、生産者の御苦勞を理解してもらうことで、残食量が少なくなり、子どもの健やかな心身の育成に繋がってほしいなと思います。

【表原市長】

ありがとうございます。価格と収量についてですが、一反あたりの生産量を確保できる土にするまでに、大体5年ぐらいかかると言われているので、その土作りだけでもとても大変です。農薬を使わないとコストは下がるかもしれませんが、生産量は激減し、草抜きや害虫駆除による歩留まりの悪さ等で、結局、お金になりません。生産者の方々のことを考えると、土を戻してから5年間にトラクターや農機具が壊れた時に、お金が手元に残らない状態では、なかなかハードルが高いです。しかし、国としても、みどりの食料システム戦略という取組の中で、オーガニック化を図ろうとしています。小松島市の事例におきましても、みどりの食料システム戦略に係る国の補助金を活用していま

す。組織、農家の皆様に対しての様々なサポートメニューが増えつつあり、今後、国のGXの潮流の中で、活用しがいがあると思っています。

事務局に確認したいのですが、このコロナ禍に入ってから食生活の変化が気になるのですが、最近の残渣量の傾向は記録として残していますか。

【松本学校給食課長】

市議会の質問に答弁したのですが、平成30年度につきましては、児童生徒1人当たり年間残食量が9.3キロでした。令和元年度につきましては、1人当たりの年間残食量が7.2キロと非常に少なくなりました。しかしながら、令和2年度につきましては8.5キロ、令和3年度につきましては7.5キロということで、7キロ8キロ台で推移をしている状況でございます。

【表原市長】

ありがとうございます。

もう1点お伺いしたいのですが、最近ですと、阿南市でも食品残渣をキエーロに入れて、新しく肥料化して再利用するというリサイクルの流れが結構出来上がっていて、市としてもその購入費用の2分の1をキエーロに対して補助金を出し、導入をしているご家庭も増えてきているということです。SDGsの効果もあり、キエーロを学年単位、教室単位、学校単位で導入しているのを聞いたことがありますか。

【松本学校給食課長】

聞いたことはないです。

【表原市長】

私からの提案ですが、農家の皆さんに対して食品を残すことが、いかにもったいないかということをおぼただけではなく、キエーロを知ってもらうことにより、例えば、教室のベランダにキエーロを置き、その肥料を使って、花壇で阿南市の花のひまわりを育てるという取組も、食品残渣に対する意識啓発の1つとして活用することができないのかなと思います。

他、この件に関して、あと15分20分程度というところですが、いかがでしょうか。

里美委員さん、お願いします。

【里美委員】

今、市長さんから伺いまして、我が家ではまさしくキエーロを小さな畑で使っておりまして、市の補助金があるというのは知りませんでした。もっとアピールしていただいてもいいんじゃないかなと委員さんのお話を伺って思いました。

【表原市長】

そうですね。

【里美委員】

オーガニック給食の問題というのは、食育、健康面、人格形成のみならず、将来の子どもたちの健康や体づくりという点で、見逃すことができない、割と深刻な問題なのかなというのを再認識いたしました。

2点質問があります。

1点は、小松島市でオーガニックビレッジ宣言ができたというのは、地域ぐるみで有機農業に取り組むという組織や素地があるからだと思いましたが、阿南市ではどうでしょうか。

もう1点は、将来的に給食費無償化というのは、全国的な流れだと思いますが、費用がよりかかるオーガニックにすることで、どのように影響するのかを教えてください。

【表原市長】

ありがとうございます。

私は、後ほど補足を入れさせていただきます。小松島市では、有機農法を取り入れる素地があるの

ですが、阿南市としてはどうなのか、まずは、事務局から回答をお願いします。

【松本学校給食課長】

まず供給の部分についてですが、現在、小松島市の学校給食では、オーガニックのお米と小松菜を採用されています。阿南市では、昨年、お米の生産者の皆様から御要望があれば賄いきれますよ、とご意見をいただいておりますので、大丈夫だと思います。小松菜については、小松島市が採用されているのと同じような形で那賀川町で生産されている方がいらっしゃいますが、阿南市の場合は、小松島市と比べて約2倍の食数が必要になりますので、今の段階では、小松菜を採用するまで量が揃わないだろうと思われます。ただし、例えば、1つの給食センターから採用する等、段階的な形であれば可能かもしれませんが、現時点では、全てのセンターから全量を賄うのは難しいです。ただし、小松島市が採用しているのと同じような農法を採用していますので、今後の営農で増やしていくことも可能ではないかなと思っています。

それから予算的な部分になります。現在、学校給食費で、給食の食材の部分と、その調理に伴う燃料費の部分を満額支払いをさせてもらっていますが、様々な食材が高騰していて、今後更に食材が高くなってくると、当然給食費の値上げの検討もしなければならないような状況になりますので、そこはまた保護者の皆様の理解を得ることが必要になってくるのではないのかなと思っています。

供給面、予算面に課題はありますが、不可能な話ではなく、段階的に一部の品目に限って採用するという形にすれば、現在も様々な生産は進められておりますので、可能なことではあるのかなと思います。以上です。

【表原市長】

では、私から補足を入れさせていただきます。阿南市において、有機農法の素地はあるのですかという質問ですが、実は、3年ほど前に、阿南市の中でも、那賀川町内の生産者が多く占めている、有機農業推進協議会が立ち上がっており、小松島市とも情報共有連携を図りつつ、主に水稻に関して、オーガニック化を図っています。無農薬有機農業へ生産者の枠組みは徐々に広がりを見せており、それぞれに様々な農法や基準もありますが、目的としては、より安心安全な食材を提供したいということです。その生産者の方々と、出前市長という形で意見交換を行ったことがあります。生産者の方からも、自分たちの育てた、安心安全な食材が地元の子どもたちに食べてもらえるということが、非常に大きな喜びであり、モチベーションにも繋がっていく、課題はあるが何とかこの取組を継続していきたい、というような力強い言葉もいただいています。よって、小松島市にキャッチアップしていけるだけの可能性は十分に秘めているのではないのかなと思いました。

給食費の無償化に関しましては、ごく限られた自治体ですが、小規模で人口1万人以下の自治体や大阪市、明石市等が導入しています。市議会の中から、そうすべきであるという声もいくつか承っており、それに対する市としての明確な方針は示していないのですが、予算面に関しては非常に大きなハードルがあるということは間違いのないと思います。

【林委員】

現在、田んぼにソーラーパネルを設置する方が多いのですが、草刈りをしません。また、休耕田になっている場合も同じです。その土地から害虫が発生するため、農薬を撒くと害虫は駆除できるが、無農薬で農業をしている近所の農家に迷惑をかけることになります。よって、オーガニックの野菜を作るのであれば、周りの害虫、環境整備も合わせて進めていかないと、良い土地や水があっても、耕作をしていない周囲の土地から害虫が来ます。そのため、仕方なくヘリコプターで農薬を散布している農家もあるそうです。ハウスの中で作るものではないので、周囲の環境整備も一緒に進めていかないと難しいと思います。

もう1点、仕事で他の町村に行った時に、給食に鹿肉が提供されていて、子どもたちが喜んで食べていました。鹿肉等はPRを兼ねて提供しているのですが、親御さんも、地元のもの食べてもらえ

ることを喜んでいきます。阿南市の広報には、害獣の駆除頭数が掲載されていますが、もし可能であれば、鹿肉等を提供すると駆除にも繋がるので、食材の1つとして考えてもいいのかなと思いました。

【表原市長】

ありがとうございます。ジビエを給食に導入して提供したことはありますか。

【松本学校給食課長】

ありません。

【表原市長】

那賀町は提供していなかったのでしょうか。もし、分かったら教えて下さい。

昨年、阿南市では、ジビエ加工処理施設がオープンし、イノシシの頭数が減ってきているような状況です。ジビエを年に1回ぐらいでも提供することについて、検討の余地はありますか。例えば、冷凍でストックをして、1つの給食センター分ぐらい溜まったときに、揚げ物等で提供することができますか。

【松本学校給食課長】

ある程度の量も必要になってきますし、当然、学校給食ですので、加熱するなどの処理は必要になると思います。

【表原市長】

それなりの量を保存して、しばらく置いておかなければならないということになります。予算の話は別にして、例えば、年に1回、ジビエデーを設けて、先ほどのビデオのように、命に感謝をするという食育にも繋げることができたらいいと思います。猟友会の方の飼い犬は、年に一頭ぐらいイノシシと戦って亡くなったりします。亡くなった大事な愛犬を供養している様子を見たことがありますが、大変な御苦労をされて、地域で御活躍なされている方のことを知るというのも、非常に大事なことだと思います。貴重な御意見をいただきありがとうございます。

あとは、オーガニック化を進めるにしても、水路を共有している隣の田んぼが農薬を使っている、その水路の下流にオーガニックを図ろうとしている農家さんがあっては、元も子もないという状況になりかねないという問題と、子どもたちの安全のために、害虫をどうにかしてほしいという親御さんの思いは、完全にトレードオフの関係だと思えます。実際にオーガニック化を進めていこうとしたときに、地域ぐるみでどうするのか、回避策をどうするのか、環境をどう整えていくか、ということに関して、今後の課題として持ち帰りたいと思います。ありがとうございました。事務局からどうぞ。

【松本学校給食課長】

先ほどお問い合わせいただきました、オーガニック給食の全国協議会でございますが、一番先行されております、千葉県のいすみ市が事務局をされていて、そこからお声掛けをいただいています。現在、地方自治体では、全国で8つの自治体が参加をされています。ただし、地方自治体を含めて206の団体、544人の個人、総数で750の団体個人の方が賛同されています。

【表原市長】

四国内で加入しているところはありますか。

【東企画政策課長】

四国内にはございません。

【表原市長】

一番近いところはどこでしょうか。

【東企画政策課長】

京都府の亀岡市有機農業推進協議会が、地方自治体に区分されていまして、徳島県からは一番近場です。

【表原市長】

分かりました。

【松本学校給食課長】

先ほどのジビエのお話ですが、2016年の3月に那賀町の学校給食で町内で言えば6つ小中学校がありますが、児童生徒430人に対して、鹿肉のカレーを出したということがあるそうです。

【表原市長】

カレーだと、多くのロットも必要なく、火が通らないこともないので、臭みを消すと使いやすいのでしょう。味も、鹿肉なのか、牛肉なのか分かりにくいかもしれません。

【林委員】

現在、生産者の方々は、給食のない時期があり、それが問題になっています。給食だけにオーガニックを提供するという話だけではなく、オーガニック野菜や食肉も含めて、道の駅やあいさい市場で、定期的に待ち望んでいる人はたくさんいると思いますので、安定して購買に繋がるよう考えていくと良いのではないのでしょうか。法的に色々問題があるかもしれませんが、学校給食以外にも活用できるよう検討すればいいのかなと思います。

【表原市長】

そこはすごく大切なことだと思います。給食だけにキャプチャーをして、生産者の方に対して繋げていくのは無理があります。どうやって生業として持続可能なものにするのか、という点においては、サプライチェーンでの出口戦略をしっかりと設けなければならないだろうと思います。先ほど出ました、道の駅や学童での食の提供、外販という形で、付加価値の高いお土産物や加工品にしたりということも含めて、ブランディング戦略が必要になってくるのかなと思います。

最後になりますが、先ほどのいすみ市についてですが、おそらくここが、国内でオーガニック化を図った町として、一番先進的な取組をしていると認識しています。例えば、先ほど言った形の悪い野菜が出てきたときに、芽を取ったり、食として提供するために、非常に手間がかかります。不整形な野菜が出てきたときに、同じ規格に揃えるためにカットをするため、親御さんや受益者の方が、チームを作って賄っているという素地があるからこそ、先ほど岡本委員さんから、不整形な食材を子どもたち提供する、という取組に繋がっています。

この取組というのは、急にできるものではなく、まず、様々な諸課題を解決する道筋を見出しつつ、徐々に育てあげていく長い道のりになりますが、決して不可能な話ではない、ということを感じてきました。

それでは、この1つ目の協議事項については、こちらで閉じさせていただきたいと思います。続いて、協議事項2番目でございます、阿南市立小・中学校再編に係る取組について、教育総務課長から説明をどうぞよろしくお願いいたします。

【田上教育総務課長】

教育総務課の田上でございます。よろしくお願いいたします。

私から阿南市立小・中学校再編に係る取組につきまして、御説明をさせていただきます。本市の学校再編につきましては、本年2月、学校の適正規模や今後の取組方法等の基本的な事項を基本方針として定めました阿南市立小・中学校再編基本計画を策定いたしました。

そして、本年度は再編基本計画で示した基本方針を具現化する再編実施計画の策定に向けて、取り組んでおります。お手元の資料の再編統合ロードマップ案を御覧ください。令和5年度のところを御覧いただけたらと思います。令和5年度におきましては、本年4月1日機構改革によりまして、教育総務課内に学校再編推進室が設置されまして、現在、再編実施計画案、これを年度内に公表できるよう、作業を進めております。実施計画案の策定に当たりましては、教育振興基本計画等策定委員会におきまして、今年度は3回の会議を予定しており、学校の統合や小中一貫教育などの具体的な再編メ

ニューについて、対象校や実施時期等も含めて御意見をいただく予定としております。また、実施計画案の公表後には、速やかに市内各地区におきまして具体的な学校再編案について説明会を実施したいと考えております。

次に、資料の阿南市立小・中学校再編実施計画書の骨子案を御覧いただけたらと思います。骨子案につきましては、令和5年8月現在における骨子案でございます。この骨子案につきましては、学校再編推進室で作成しております現段階のものでございます。8月28日に開催を予定しております教育振興基本計画等策定委員会におきましても、御意見をいただく予定としているたたき台としての現段階の資料でございます。2ページをお願いいたします。第1章では実施計画策定の趣旨として、本計画策定の経緯、3ページでは、学校再編基本計画における学校再編の方法を掲載しており、今後、必要とされる具体的な再編実施内容を検討してまいりたいと考えております。5ページをお願いいたします。5ページの第2章では、小・中学校の現状と課題といたしまして、小・中学校の一覧表により児童生徒数、学級数、教職員数等の動向や校舎建築年度などの学校施設の状況を整理することといたしております。また、7ページの3番の学校再編で目指す教育、こちらにおきましては、本市における教育目標等を整理し、学校再編に伴う教育環境の変化に応じた教育のあり方について、基本方針を整理することとしております。8ページをお願いいたします。8ページの第3章再編実施計画では、策定方針といたしまして、中学校区ごと、あるいは地域ごとに具体的な小中学校の再編統合案をお示しすることとしております。また文部科学省の新しい時代の学びを実現する学校施設のあり方について資料で別紙をお配りしておりますが、これを参考に、本市の学校施設のあり方の方針を検討することを考えております。最後に9ページでございますが、第4章で再編統合のスケジュールについて検討することとしております。スケジュールの整理につきましては、地域における合意形成が重要となってまいりますので、先進地の事例等を参考に、合意形成に至るパターンについて検討し、実施計画に掲載したいと考えております。

以上が、現段階における骨子案でございますが、学校再編につきましては、地域社会や市民生活に大きな影響が生じますことから、庁内の関係部署と連携をしながら取組を進めてまいりたいと考えております。以上、御説明とさせていただきます。

【表原市長】

ありがとうございます。

ただいま教育総務課長から説明がありました、9ページにパターンが2つありますが、これは案1、案2というような捉え方でよろしいでしょうか。

【田上教育総務課長】

他市の状況から、阿南市に合うようなパターン2つを載せてみましたが、上段のパターンにつきましては、合意形成が住民説明会の後すぐに合意形成・再編決定ということになっています。これは、住民説明会で十分説明を尽くして、合意形成が取れたという形でオレンジ色の実施計画を公表します。下段の案につきましては、住民説明会が終わった後に実施計画を公表しまして、その後、合意形成を図っていった、合意形成ができたところから再編に取り組むというようなイメージです。他にも、いろんなパターンがあると思うのですが、阿南に合ったような合意形成を考えていければと思います。

【表原市長】

この下段に関しては、実施計画（案）としておいた方が多分わかりやすいのではないのでしょうか。下段は意見を踏まえて、アップデートした形にして、準備会に移るとのことだと思います。

【田上教育総務課長】

案なんですけど、一応は実施計画として公表して、その後、合意形成に至らない場合は、また実施計画を変更していくような形も想定できます。

【表原市長】

そうですね。ちなみに、小松島市はどちらだったのでしょうか。

【田上教育総務課長】

小松島市は上段で、住民説明会で十分議論を尽くして合意形成をいただけたということで、実施計画を公表します、ということです。

【表原市長】

わかりました。ありがとうございます。それでは以上の説明を踏まえまして、大まかな流れ、それから今後の課題について、皆様方からの御意見を賜りたいと存じます。いかがでしょうか。どなたからでも構いません。岡本委員さんは、再編の話が地域の中での関心事としてありますでしょうか。

【岡本委員】

現在、地元の小学校がホーム1クラスになり、中学校に関しても、1年生2クラスというのが今後も続いていくのが見えていて、人の減り方が凄まじいと感じています。その中で、再編統合というのは、いつしか来るべきところなのかなというのは感じています。実際に、どういう形が町内であればいいのかというのは、住んでいる場所にもよるので、色んな意見が出て、一筋縄ではいかないのではないのかな、と思っていたところではあります。

【表原市長】

想定される課題については、色々あると思います。例えば、仮に再編統合することで、地元で学校がなくなる地域の皆様方のことを考えたときに、交通やその後の校舎の問題も含めて、学校がなくなるということは、コミュニティの崩壊に繋がるということが、すぐに頭に浮かぶと思います。校舎の跡地をどう活用するのかということで、最近、新聞に鳴門市の例が大きくカラーで掲載されました。統廃合の対象となった学校で、宿泊施設か物販を行っているという記事です。

【林委員】

島田幼稚園・小学校と瀬戸幼稚園・小学校です。

【表原市長】

そういう他市の先行事例などもある中で、皆様それぞれに感じられることは、どうでしょうか。林委員さんどうですか。

【林委員】

昨年から、この総合教育会議等で、色々学ばせていただいております。私も、行政にいたときに感じたのは、行政の縦割りの壁を取り払わないといけないな、と感じるところがあります。例えば、厚生労働省管轄の放課後児童クラブの対象は、共働きの方の子どもさんが入れる、という条件があります。そして、この児童クラブに預けたくても、発達障がいがあったり、支援を必要とする子どもさんの場合には、放課後等デイサービスに預けることになります。放課後等デイサービスは、阿南市内に19ヶ所ありますが、なかなかその情報が、対象者の方に届いていないという声があります。療育手帳や身体障がい者手帳を発行したときに紹介していますが、阿南市独自の一覧はなく、県が公表している100何ヶ所の一覧表をコピーして渡している、ということを知りました。

放課後児童クラブは、就学時の入学説明会の際にチラシを置き、1月後半から2月にかけて決めていく家庭が多いのですが、発達障がいの子どものさんや支援を必要とする子どもさんは、その時期だともう間に合わないというのはよく聞きました。

ですから、来年から小学校に入る子どもさんであれば、放課後等デイサービスを夏から秋には決めていないと、4月からの仕事調整ができず、仕事を辞めなければならないという切羽詰まった方の声を聞いたことがあります。しかしながら、この制度は、2012年にスタートし、当時は利用する子どもは5万人だったのが、10年後には、31万人と6倍近くに増えており、預かってくれる場所のPRをすると、逆に施設が不足する可能性もある、と保護者からお伺いしました。この制度は、文部科学

省の初等中等教育の特別支援課が担当で、ただし、この指針を見直すのは厚生労働省だそうです。

もう1つは、阿南市でも始めたB&G第三の居場所についてです。阿南市として、実施計画書は出ているのですが、子どもの居場所は3年間財団で運営した後は、自分たちで運営していくようになります。そうすると、行政はノータッチになっていくのですが、親や子どもの視点から言うと、その後も、ずっと支援をしてくれる相談の窓口がある、ない、も含めて情報が前広く提供されることが必要だと思います。来年から、子どもが小学校に入学する時、発達障がいがある場合、共働きの場合等、様々なケースがありますので、阿南市が文科省のたたき台の中から、子どもの居場所だけでもどういう議論をして、地元の説明会に提示できるか、それを詰めていかないと難しいと思います。

再編計画の話ですが、小松島市は、保育所の認定こども園の再編計画と、小中の再編を同時に説明されていました。阿南市でも保育指針の中で、検討していただいていると思うのですが、例えば、保育所・幼稚園が、A小中学校の校区なのに、小中の再編が隣のBの校区だと、兄弟がいる親御さんは大変です。具体的な案を来年ぐらいに出すと思うのですが、そのすり合わせを関係部局でしていただきたいと思います。地域の足である公共交通について、デマンドタクシーの意見を出してくれたのは高校生と聞いていますので、小中の再編の問題ではありますが、巣立っていった高校生たちの声も、何らかの形で聞けたらいいですし、保護者や子どもたちにとって、よりよい再編ができればいいなと思います。

【表原市長】

ありがとうございます。

多岐にわたる課題の提起だと思います。地図を俯瞰したときに、再編によって空洞化をしてしまう子どもの居場所を、幼少から中、高、その先と時系列で、継ぎ目のないような形にしていくために、行政においても市と県、それぞれの部局を繋いでいけるような情報共有や、連携のプラットフォームがどうしても必要であり、子どもや保護者の皆様に対して、より分かりやすく、サービスにリーチできるような枠組みや仕組み作りが非常に大事になります。そこが提示できて初めて、ようやくこの再編統合の話も合意形成を図ることができる、その素地として、情報共有が必要になるんだというご提起だったと思います。残り10分ほどになってしまいましたので、各委員さんに一言ずついただきたいと思います。

新居委員さん、お願いします。

【新居委員】

先ほどおっしゃいました、放課後等児童デイサービスに関しましては、本当によく声は上がるのですが、例えば、業者の方に確認をしましても、様々なサービスについては教えていただけません。

しかし、親同士のネットワークが発達していて、学校に入って初めて、親からのアドバイスで、ここに行ったらいいよ、と聞いてすぐにデイサービスを見つけることができるのですが、意外と、発達障がいや障がいを持っている子たちはたくさんいるのに、皆さん見えていないと思います。でも、市民として暮らしていますし、色んな支援を同じように受けられるべきだと思います。ほぼ同等の児童サービスというのがありますが、ずっと子どもではいられませんので、高校を卒業して、今度は就労したときに、就労が終わって早く帰ってきたあとのデイサービスのようなものが全国的にありません。学校の部分だけを見るのではなく、ここに住んでいる子どもたちが、いずれ大人になって、その人たちが保障されていく場所というものを継続的に作っていただきたい、とすごく感じます。

先日、全市町村の教育委員の会議に参加させていただいた時に、分科会でお話を聞いたのですが、小中一貫校になった場合、小学校の子たちも高学年から中学生と一緒に部活をすることができる分、部活の幅が広がるということをおっしゃっていました。せっかく新しいものを作るのであれば、ただ単に1つにまとめるのではなく、特色のあるような学校を作っていく、これからの未来を考えた学校づくりを視野に入れていきたいなと思っております。

【表原市長】

再編とは直接関係がないように思えるようなことも、非常に大事な視点であると思います。現在、阿南市では、障がいのある子どもたちを特化型で受け入れられる保育施設がありません。そこで、親御さんは小松島まで子どもを預けに行き、例えば、コロナのような状況になった時には、またすぐに迎えに行かなければなりません。共働きの状況で育てられている、もしくはワンオペで子どもを育てられている保護者の方々の心境を考えると、再編のあり方やセーフティネットをどう設けていくのか、ということも非常に大事なのかなという意見だったと思います。

【里美委員】

私もこれまでいろいろ勉強をさせていただいて、通学距離、それから学校設備をどうするか、この2点が課題だと思います。今回、学校訪問をさせていただいた、椿泊、椿町中学校と、羽ノ浦中学校、真逆の学校を見せていただくと、阿南市はいろんなケースが混在しています。よって、合意形成を図るのは、難しいだろうなと思います。高齢の方から、学校再編するらしいけど、絶対反対しようとして若い人に言いました、と聞いたりします。高齢の方からすると、地域から子どもがいなくなるのは寂しいということだと思います。

御高齢になられると、エネルギーが落ちていくようなことは、受け入れがたいところが当然あります。人口が多く、ずっと右肩上がりを経験しておられる方からすると、とても受け入れがたい感情的・情緒的なものがあるのだと思います。先ほど、行政の縦割りなどが問題になるとの話がありましたが、私も色んな会に出席して、最後は部署が違うところなのでということで、問題解決が少し先延ばしになる状況が度々ありました。この問題に関しては、市民の方々がどれだけ感覚的に審議しておられるかどうかです。椿町中学校で、たった1人、教室で勉強をしている生徒さんを見れば、やはりこれは教育として何か違うんじゃないかという気持ちになると思います。それを市民の方々が、どれだけ共有できているかです。教育委員をさせていただいて、学校訪問を一市民としてさせていただけるので実感できるのですが、私が一般の町の中の主婦だったら、そういう話はあるけれど、まだまだ先と思っていたと思います。しかし、これはもう待たないというのは感じます。もっとも息子が15年前、富岡小学校に通っていた当時、生徒数は700人でしたが、今は400人です。これはさらに加速すると思います。気がついたらいないという状況が、もう目の前に迫っているというのは素人でも分かります。

どういふふうで合意形成を図るかというのは、先ほども申し上げましたように、人間は沈んでいくのは寂しいので、少なくなるというのがマイナス面だけなのか、発想転換をされたらどうかと思います。幸い、阿南市には力強い企業さんもいますし、自然環境に恵まれ、人口のわりに学校が多く、本を借りられる方も多いという嬉しい情報もいただきました。なので、新居委員さんがおっしゃった未来志向で考えられたらいいんじゃないかなと思います。この問題は、学校再編だけの問題ではなく、まちづくり再編の問題です。そこに結びつけて、阿南市ならではの発想の転換で、他市が実施しているからという概念を取り払って、オーガニック給食も素晴らしいし、新しい図書館も素晴らしいし、阿南市だったらできるんだということで、どんどん未来に向かってこの問題を繋げていってほしいです。無くなってしまふ、少なくなってしまう、だから我慢してください、だけでは市民の方々はついてきてくれません。まだまだ、全国的に良いものがありますし、悪くないと思います。

そういう意味で、市長さんにはぜひ、リーダーシップをとって、力強く未来志向で進めていただきたいです。

【表原市長】

ありがとうございます。残り時間が少なくなりましたが、里美委員さんがおっしゃっていたことは、まさしくそのとおりだと思います。少なくなっていく人口、古びていく建物施設、それによって空き家が増える等の暗い側面ばかりに目を向けてしまい、ネガティブ思考に陥ることで、学校

再編に反対という声が渦巻く議論というのは非常にもの寂しいものがあると思います。教育や学校再編、あるいは中心市街地のまちづくりを、今まで阿南市の歴史の中で育んできた様々な地域資源と掛け合わせて、良いデザインを描くことさえできれば、少ない人口でも経済活動を起こして、他には無いものを生み出したり、人材育成に繋げることができるはずです。まちづくり全体の明るいテーマとして、学校再編を話し合う素地をいかに醸成できるかというのは、当然ながら私のリーダーシップでもあり、そして教育長のリーダーシップでもあるのかなと思います。最後、教育長から一言お願いします。

【坂本教育長】

最近、私は、新聞の最後の方のページにあります、おめでたの記事を見るときに、今日はできるだけたくさんの方が生まれていますように、と願います。上半期の阿南市の出生数は179人と聞いています。1日1人、年間で360とか370の出生数ということで、この数は変わらないのかなと思います。この子供たちの未来をどうやって保障していくのか、ということを感じながら見えています。

再編については、色んな方から色んな声をいただいて、早くしてほしいという声もあれば絶対に許さないという声もあります。まず、私は、それぞれの思いの中でそれぞれの方の痛みを知る、ということこれからしっかり捉えて、今後厳しい説明等を越えていかなければならない場面というのがあると思うのですが、どれだけその方々の思いも踏まえた上で、誠意をもって説明を尽くせるか、ということが非常に大事だと思います。全員から100点というのはなかなか無いと思いますが、信念を持って、これから決定した方針に沿って頑張っていければと思いますので、よろしくお願いします。

【表原市長】

ありがとうございました。一連の御意見をいただく中で、この学校再編といったことだけではなく、先ほどの学校給食や、中心市街地のまちづくり、那賀川町においては、町民センターをその後どうするのかといった様々な地域課題に対して、人口減少と高齢化がそれを全て阻害するというのではなく、その変化に応じたまちづくりの中で、価値ある物語を私たち1人1人が、いかに語っていけるかということが、非常に大事だと思っています。その機運を醸成していくのは、私のリーダーシップもとても大切ですが、それに追随して、その物語にもう少し彩り豊かな補足を入れていただけるフォロワーの協力というものが非常に重要になります。私もファーストペンギンとして、冷たい水に飛び込むことはこれからもありますが、どうかそういった支えとして、教育委員の皆様方にも御協力、御助力いただきたいと思っています。学校再編の話は決して暗いものではない、ということを明確に市民の皆様方に対して発信をしまいたいと思いますので、引き続きの御協力を何卒よろしくお願いします。

それではちょうど3分ほど過ぎましたけれども、その他につきまして何かございましたら、いかがでしょうか。

総合教育会議だけではなく、様々な機会を通じて皆様方とは意見交換、オフィシャル、ノンオフィシャルを問わず設けてまいりたいと思いますので、併せてよろしくお願いを申し上げます。以上をもちまして、協議を終了させていただきたいと思います。事務局に戻します。よろしくお願いします。

【東企画政策課長】

皆様方におきましては、長時間にわたり、熱心に御協議いただき、ありがとうございました。それでは、以上をもちまして、令和5年度第1回阿南市総合教育会議を閉会いたします。皆様、御協力ありがとうございました。

14：48 閉会